

倶多楽

1 概況

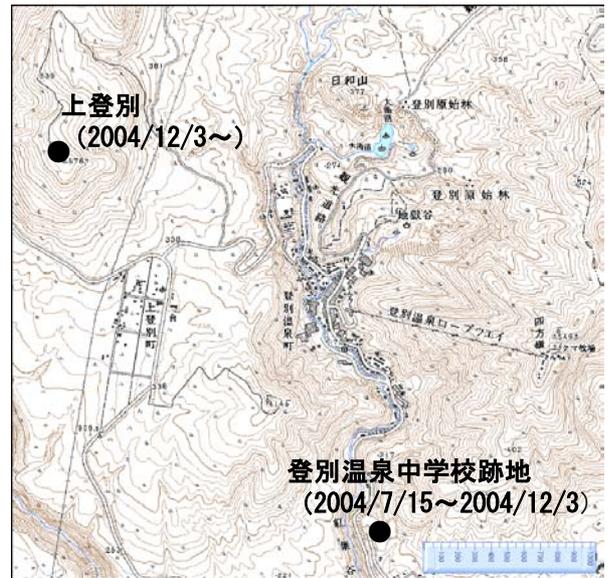
1 日及び 4 日に実施した調査観測、及び 2 日に実施した上空からの観測では、噴気の状態や火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏な状態です。

2 地震および微動の発生状況

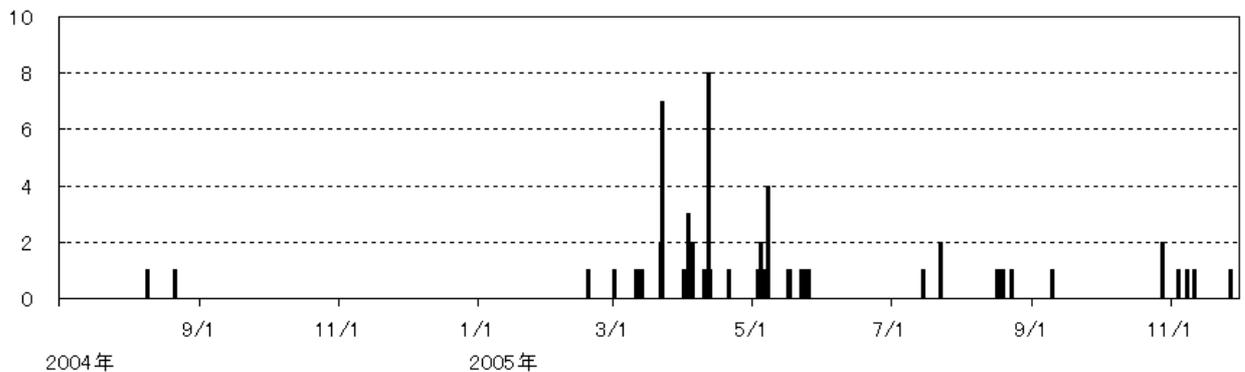
札幌火山監視・情報センターでは、火山性地震の活動状況を把握するため、2004 年 7 月 15 日から 12 月 3 日までは登別温泉中学校跡地、12 月 3 日以降は上登別において地震計による連続観測を行っています。

これまでの観測の結果、倶多楽の地震活動は静穏に経過しています。広域地震観測網による観測では、この期間倶多楽に震源の求まった地震はありませんでした。

2005 年 11 月の火山性地震は 1 日あたり 0～1 回で推移しました。火山性微動は観測されませんでした。



地震計設置地点

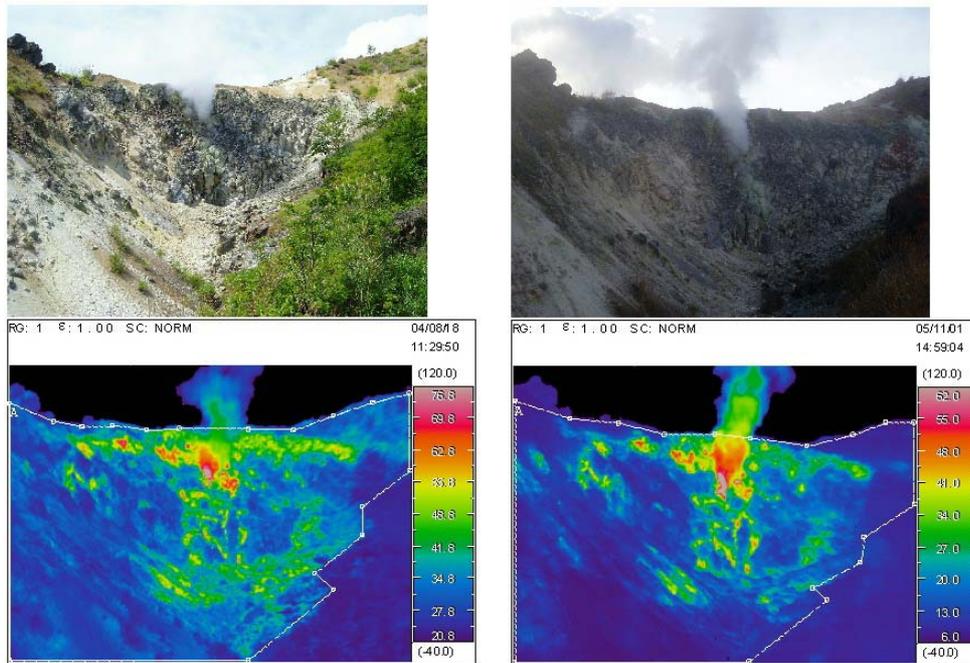


3 調査観測の結果

1日および4日に調査観測を実施しました。日和山、大湯沼、地獄谷等の熱活動の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

【日和山】

山頂部の噴気孔ではこれまでと同様に、大きな噴気音を伴って白色の噴気を勢いよく噴出していました。噴気温度は114℃で前回(2004年8月120℃)と比べて大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では地熱域の状況に変化はありませんでした。



赤外熱映像装置*による日和山の表面温度分布 (左 2004 年 8 月 18 日 右 2005 年 11 月 1 日)

【大湯沼】

大湯沼およびその周辺の湯沼や地熱域の状況に変化はなく、熱水の湧出や弱い噴気活動が続いていました。

【地獄谷】

地獄谷の各温泉の状況に変化はありませんでした。地獄谷のほぼ中央に位置する東方噴気孔群(通称お初地獄)では活発な熱水の湧出が続いています。



大湯沼



地獄谷

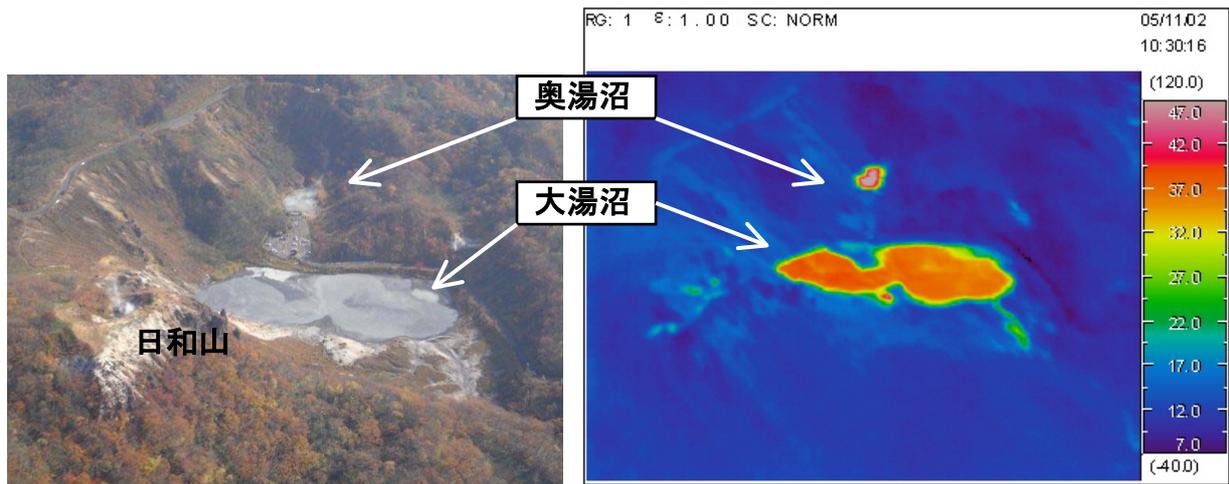


倶多楽周辺図

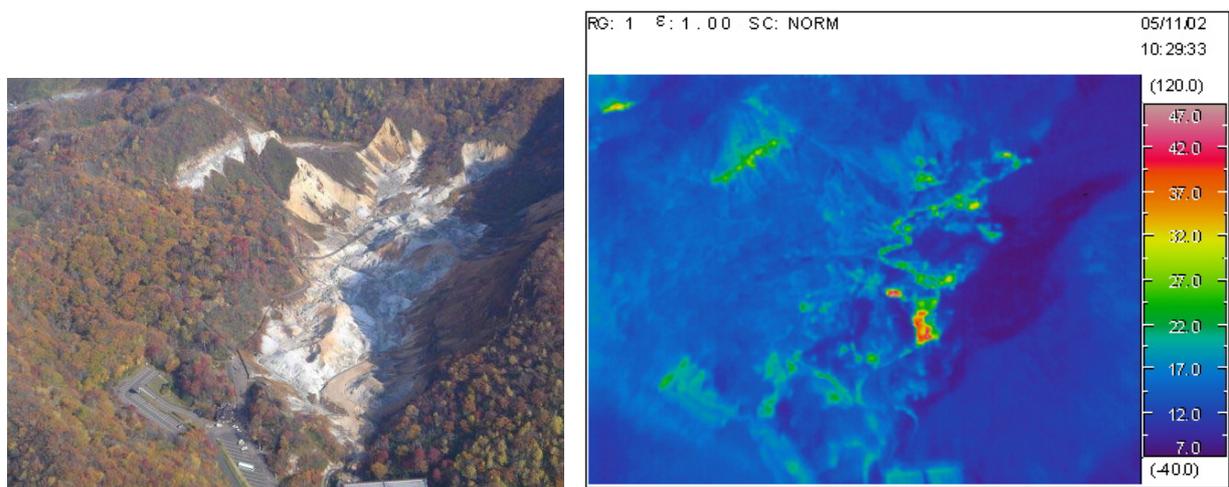
倶多楽

4 上空からの観測結果

11月2日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、日和山山頂部の噴気孔で依然活発な噴気活動が続いており、これまでと大きな変化はありませんでした。噴気孔からは白色の噴気を30~50m程度の高さまで勢よく噴出していました。大湯沼と奥湯沼は全面湯溜まりの状態が続いており、地獄谷爆裂火口では弱い噴気が認められました。また赤外熱映像装置*による観測では、前回の上空からの観測(10月12日)と比べて大湯沼周辺の温度分布に変化は認められませんでした。



北西側上空(下図→方向)から測定した日和山付近の表面温度分布



南西側上空(下図→方向)から測定した地獄谷表面温度分布

*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

